



URL <http://e-jousenji.com/>

浄泉寺寺報

発行日 平成29年1月20日
 発行者 浄泉寺住職 赤羽根 證信
 住 所 大崎市岩出山字浦小路113
 電 話 0229-72-1168

ただ念仏して弥陀にたすけまいらすべし

浄泉寺 住職 赤羽根 證 信

いちいち はなのなかよりは
 三十六百千億の
 光明^{こうみょう}てらしてほがらかに
 いたらぬところはさらになし
 (『浄土和讃』註釈版p.563)

平成29年、あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願いいたします。

昨年、約15年に及ぶ時を経て、宗祖親鸞聖人750回ご遠忌記念事業が完了いたしました。

3月31日、事業期間中ご影堂に仮安置されていたご本尊阿弥陀如来像が、修復完成した阿弥陀堂(本堂)にお還りになる還座式(げんざしき)が行われ、翌4月1日には、宗祖親鸞聖人ご誕生会音楽法要が、全国から参加した120名の混声合唱団で行われました。その中に浄泉寺同朋の会から5名の方が加わりました。その方々は初めての曲でしたので大変苦労されたとのこと…。しかし、演奏が終わりその感動は「素晴らしい」ものだった様です。音楽法要は毎年4月1日に行われますので参加されては如何でしょう。

最近毎年のように、11月28日に行われる本山報恩講ご満座に詣ることを目標に1年を過ごすことにしておりますが、な

かなか容易なことではないと痛感しております。

さて今年はどんな1年にしようかと自分にプレッシャーをかけております。例えば「同朋の会の活動を他の寺との交流を通して見る」こんな企画はどうかと思っております。同朋の会が結成されて3年を過ぎ、春のつどい(法要)や報恩講などの行事の裏方としての存在だけではなく、会独自の事業を推進できることを目指して欲しいと願っております。

3年前、九州の瀧春樹様(俳句同人誌樹の会代表)より贈っていただいた白い彼岸花、それを同朋の会により駐車場の土手に植えられ、春はさくら、夏は彼岸花、秋は紅葉に彩られ、私にくれたエネルギーは「つながりを生きる」ことの尊さを気付かせていただきました。

お釈迦様も「すべてのいのちは縁によってなる」と教示されております。お釈迦様の生きた時代(約2500年前)を越えて、末法という時代でも宗祖親鸞聖人が開かれた「ただ念仏して弥陀にたすけまいらすべし」「1人で生きるときは2人と思え」と私達に呼びかけ、寄り添い、励ましておられます。(合掌)

【投稿】帰敬式を受けて

浄泉寺門徒 渡 辺 一 栄

私は、生来「浄土真宗」とか「宗祖親鸞聖人」とか、仏教について全く無知・無縁でしたが、父の3回忌で浄泉寺を訪問した際、本堂にあった「真宗の生活」という小冊子を手にとりページをめくっているうちに、初めて「帰敬式（おかみそり）」という儀式があることを知りました。以後、何故か帰敬式について興味をひかれ、書籍やインターネットで調べた結果、受式した場合は、生前に「法名」を授かり、以降は「仏弟子を名告ることになる」という事でした。

しかし、もっとよく知りたいと思うようになり、翌年8月頃再度浄泉寺に伺った折に、住職さんをつかまえて、帰敬式を中心に、法名や墓や仏壇等々についていろいろな疑問点を質問し、分り易く説明していただき、帰敬式のありかたについてもご教示いただきました。それで思ったことは「自分も早く受式しよう」という結論でした。

受式のタイミングとしては、自分の定年が10月末なので、その前にすることにし「法名を授かり人生の再スタートを」と思い、本山での受式の段取りをご指導いただきました。

10月8日、仙台から高速を走り本山のある京都に9日到着。1日おいた10日の午前真宗本廟の駐車場に入り、参拝者接待所で帰敬式の受付用紙に必要な事項を記載しお手次料を納付しました。

開式までは、接待所での休憩時に「親鸞聖人の生涯」のアニメビデオを鑑賞し、午前の部の始まりを待ちました。その後ご影堂の中へ通されたところ、そこは荘厳かつ圧倒的な広さの本堂で、奥の方には

ご真影等があり、かなり緊張しておりましたが、帰敬式を執行するお坊さんから式次第の説明と受式者がなすべき事柄の説明を受け、少し負担が軽くなりました。

いよいよ帰敬式が始まり以下のとおり進行。「開式の辞」から始まり、「真宗宗歌斉唱」「三帰依文斉唱」「剃刀の儀」「執行の辞」「法名の伝達」「誓いの辞」「勤行」「法話」「恩徳讃斉唱」と続き「閉式の辞」で式終了となりました。

帰敬式を無事修了出来るか心配でしたが、執行役のお坊さんのご指導もあり何事もなく終了することが出来ました。終了後は再び接待所へ戻り記念品を渡されました。それは「東本願寺」と刺繍された布製の紺色のバッグでした。その中には和紙の「法名伝達書」が入っており「法名 釋廣智」と「釋浄如 真宗大谷派門主」の署名と朱印による押印がありました。その他には正信偈他のCDや肩衣が入っていました。

私は自分の法名の由来が知りたかったので係の方に尋ねたところ「仏説無量寿経」の一節から引用したとのことで、該当部分のコピーをいただきました。

法名については、浄泉寺で「もし、自分の名前の一部を法名に入れて欲しい時は事前に相談ください。それ以外は執行側で授ける2字が法名となります」と説明を受けましたが、私は本山で受けた法名を使わせてもらおうと思っています。

帰敬式を受けようとの決心から、短期間で実現出来て幸運だったと思います。今は、法名を授かってから4年程経過しましたが、良いご縁で受式出来て本当に良かったと感謝の毎日を送っております。

ご門徒の皆様とともに

浄泉寺副住職 赤羽根 聡

1月に中新田で催された演奏会で、ベートーベンの第九を「すべての人々は兄弟となる」と歌い上げてはじまった2016年は、いろいろな行事を通じて、いのちの偈^{うた}と出会う機会の多かった一年だったと思います。

2月には、本山春の法要で厳修される「音楽法要」に参加予定の方々と共に、その魅力を伝えながら慣れないピアノを横に練習に参加させていただき、4月1日の本番に臨みました。

5月の浄泉寺春のつどいでは、多くの仏教讃歌をともに歌い、あらためてその味わいをかみしめることができました。そして毎年11月に厳修される報恩講では、多くのご門徒の皆さんと声高らかに正信偈をおつとめしました。

本堂をつつみこむ声明、そして讃歌はひとりでは到底醸し出せない魅力があり、それを作り出すのは、ご門徒の皆さんの支えに他ならないと思います。

どうぞ今年も、多くの人々の声が行き交うお寺へ、足をお運びください。

合掌

お 知 ら せ

浄泉寺 平成29年の行事予定

- 1月16日10時～ 修正会
- 2月 浄泉寺・成願寺同朋の会研修
- 3月30日～4月1日 本山音楽法要参詣
- 5月(日時未定) 浄泉寺同朋の会総会
- 5月21日13時～ 春のつどい・帰敬式
- 6月(日時未定) 護寺会総会
- 8月13～16日18時～ 万灯籠会
- 9月(日時未定) 帰敬式受式者研修会
- 10月16日10時～ 東北別院報恩講参詣
- 11月(日時未定)～ おみがき奉仕
- 11月23日9時～ 浄泉寺報恩講

平成28年浄泉寺報恩講実施報告



平成28年11月23日、恒例の浄泉寺報恩講が実施されました。これは、親鸞聖人のご命日(11月28日)に合せ「聖人の徳を讃え、恩に報いる」法座として全国の真宗寺院にて開催されております。

浄泉寺報恩講は、毎年11月23日(祝日)に実施しており、今年も大勢の方々のご参詣をいただき盛大に行われました。式は「真宗宗歌斉唱」に始まり「みなでお勤め」と進み、庄司護寺会会長から「ごあいさつ」を頂戴し、その後「ご満座勤行」が執り行われました。ご満座勤行には仙台組内のご住職が十数名も参集され、厳粛な勤行となりました。

続いて東北別院輪番清谷真澄師よりご法話「三帰依文」をいただきました。師のご法話は今年で3回目となりましたが、ご住職からの切なる願いもあってか、「来年もまた…」の期待を抱かせるものとなりました。法話が終了し恩徳讃斉唱の後、お斎をいただき散会となりました。お斎担当として20名もの方が参加されましたこと、心からお礼申し上げます。

その後、門徒相互の懇親の場が設けられ、護寺会役員、同朋の会会員、担当地区お手伝いの皆さんも加わり、事業終了の反省をいたしました。ご協力いただきました皆様には深く感謝申し上げます。

平成28年帰敬式受式者研修会実施



9月4日、浄泉寺本堂にて帰敬式受式者研修会が行われました。

浄泉寺では5月に行われる「春のつどい」の中で帰敬式が行われ、3回目の今年まで31名が受式されました。それ以前に真宗本廟にて受式された方11名を加えると現時点で42名の受式者がおり、当日はその対象者の中から30名が参加され研修を実施しました。

◎研修会スケジュール

9:00 開会

1. 真宗宗歌斉唱
2. 勤行（正信偈同朋奉讃）
3. あいさつ：住職
4. 講師紹介と日程説明

講師：仙台教区 松島願立寺

副住職 磯崎 信光師

年回表 (平成二十九年)	
一回忌	平成二十八年
三回忌	平成二十七年
七回忌	平成二十三年
十三回忌	平成十七年
十七回忌	平成十三年
二十三回忌	平成七年
二十七回忌	平成三年
三十三回忌	昭和六十年
三十七回忌	昭和五十六年
五十回忌	昭和四十二年
百回忌	大正七年

10:00 講義 テーマ：帰依三宝

11:30 昼食

13:00 講義 テーマ：帰依三宝

14:00 質疑応答

恩徳讃斉唱

休憩

15:00 懇親・懇談

16:00 閉会

この研修は毎年行い、真宗門徒としての素養を高めて行く所存ですので、先ず帰敬式をお受けになります様お薦めいたします。

お申込は浄泉寺（☎72-1168）まで、受式されるご本人の住所、氏名、電話番号を正しくお伝え願います。帰敬式は毎年5月に開催される「浄泉寺春のつどい」の中で実施されます。

平成28年も過ぎ去り、酉年の新年を迎えた。酉とは、もともとは酒つぼを意味し、収穫した果実から酒を作るという行為に由来したという説がある▼また、干支9番目の申と11番目の戌との仲の良くない間に立つて、その仲を取り持つために「トリ」が入ったという言い伝えもある。酉年生まれの性格は「真面目でプライドが高い」ので「気難しい」「融通が利かない」らしいが「良い方向に向けば良い結果が得られるのでは」との見方も……▼これらはあくまでも言い伝えの中でのこと。酉の字が意味するように、酉年の干支の考えにあるように、真面目に、真剣に、一つの方向を目指して進むことによって、その結果が得られるのであれば、それはそれで良いことであろう▼ここ数年、浄泉寺では新たな事業が展開されている。春のつどい開催、帰敬式の実施、帰敬式受式者研修会開催などがそれだ。これらの事業が定着し継続出来るよう、この酉年に更に充実されることを願う。

（編集委員）

あ

と

が

き